



## 平成 27 年度 UR 技術・研究報告会を開催

日本住宅公団創立から 60 周年の本年度は、「60 年 まちと一緒にこれからも。—知恵と技術で生み出す未来—」と題し、調査・研究等の成果や今後のまちづくりに向けての取組状況を幅広く一般の方々に向けて機構職員より報告いたします。加えて、東京会場では、東京大学教授 隈研吾建築都市設計事務所代表 隈 研吾氏の特別講演と、企画展としてミニ集合住宅歴史館展を行います。これらは国土交通省の住生活月間（10 月）の取り組みの一環として開催するものです。

平成27年度 **UR技術・研究報告会** 入場無料 定員610名

2015年10月28日(水) 10:00～17:00 (開場9:30) 東京会場 日経ホール 東京都千代田区大手町1-3-7 (P7セブ)地下街(大手町駅)下層 C2B出口(階段)

10月21日(水) 他、大阪会場 テイジンホール

お問い合わせは下記へお願いします。

本社 技術・コスト管理部 技術調査チーム  
(電話) 045-650-0659

本社 広報室 報道班

(電話) 03-5323-2756

## 平成 27 年度 UR 技術・研究報告会〔東京会場〕 開催概要

### 1 メインテーマについて

60 年前、戦後の住宅不足を解消するために日本住宅公団が発足して以来、UR は各時代のまちの課題に向き合ってきました。そして現在、超高齢社会の到来、環境・エネルギー問題への意識の高まり、東日本大震災からの復興などの社会的背景のなか、私たちのまちや住まいに対する意識は大きく変わろうとしています。

過去から培ってきたノウハウを活用しつつ、これからはハード（技術）だけではなく、ソフト（知恵）との融合により、さらに生き生きと暮らし続けることのできるまちづくりを考えていきたいと思えます。

### 2 日時

平成 27 年 10 月 28 日（水） 10：00～17：00 （開場 9：30）

### 3 会場

日経ホール（定員 610 名） 東京都千代田区大手町 1-3-7（日経ビル）

### 4 内容（別紙 1～3 のとおり）

#### （1）特別講演：「団地の未来」

（講師） 東京大学教授 隈研吾建築都市設計事務所代表 隈 研吾 氏

#### （2）調査研究、取り組み等の報告

全 7 課題

#### （3）企画展

ミニ集合住宅歴史館展－昭和 30 年 新しい住まいの形と暮らしが始まった－

### 5 入場料・テキスト料

無料 ※研究報告会用テキストは、当日会場で配布いたします。

### 6 ホームページ

（アドレス）<http://www.ur-net.go.jp/rd/houkokukai/>

ホームページより事前に参加申込みを受け付けております。参加申込みの締め切りは、東京：10 月 18 日となります。

## 7 CPD認定

本報告会は都市計画CPD、造園CPDの認定を受けております。

※本報告会で認定されるCPD単位は、上記団体以外の団体でも、認定される場合がありますので、建設系CPD協議会のホームページまたは、所属されている団体のホームページ等でご確認ください。

## 8 その他の会場

東京会場のほか、大阪においても開催いたします。

	大阪会場
日時	平成27年10月21日(水) 10:30~17:00(10:00開場)
会場	テイジンホール(定員285名) 大阪府大阪市中央区南本町1-6-7(帝人ビル)
内容	①特別講演 「戦後日本の街、住宅づくりにUR都市機構が残した成果と今後目指すもの —江北六丁目団地と国立富士見台のケーススタディを事例に—」 (講師) 株遠藤剛生建築設計事務所 所長 神戸芸術工科大学環境デザイン学科 特別教授 遠藤 剛生 氏 ②調査研究、取り組み等の報告 全6課題 ③ミニコーナー(過去の募集パンフレット、パネル展示等) ※詳細は別紙【参考】1~3のとおり

平成 27 年度 UR 技術・研究報告会〔東京会場〕

1 特別講演

「団地の未来」

(講師) 東京大学教授 隈研吾建築都市設計事務所代表 隈 研吾 氏

クリエイティブディレクターの佐藤可士和氏と二人三脚で取り組んでいる「団地の未来」プロジェクトの展望と近況報告について。

住宅を商品として売買する時代が終わりを迎えた今、これからの住まいのあり方を考える。

2 調査・研究、取り組み等の報告

(1) 生物多様性創出に向けて

ビオトープ施設における 10 年間のモニタリング調査

(2) 団地の歩み

公団住宅から UR 賃貸住宅まで、60 年の住まいづくり

(3) UR ストックの維持修繕

UR ストックの維持修繕における様々な取り組み

(4) 次世代のまちづくり

ルネッサンス in 洋光台から、団地の未来へ

(5) 超高齢社会に向けて

豊四季台団地周辺地域における Aging in Place への取り組み  
～産学官連携プロジェクトの進捗～

(6) 復興支援事業の歩み

東日本大震災からの復興支援に係る様々な取り組み

(7) 環境と共生する都市再生

大手町連鎖型都市再生プロジェクトと自然共生空間創出

3 企画展

(1) 展示名

ミニ集合住宅歴史館展 ー昭和 30 年 新しい住まいの形と暮らしが始まったー

(2) 展示日時

報告会同時開催 (10 月 28 日 (水) 9 : 30 開場時から講演終了後まで)

(3) 展示場所

日経ホール ホワイエ (4 階)

#### (4) 内容

昭和 30 年代の暮らしの雰囲気や住まいづくりの歴史を感じられる展示スペースを設置します。実寸大住戸プランの上にステンレスキッチンやダイニングテーブル、浴槽等を設置する他、過去の募集パンフレット、団地案内板、集合名札、公団銘板、当時の設計思想スケッチなどを展示いたします。

【参考】〔大阪会場〕10月21日（水） テイジンホール

#### 1 特別講演

「戦後日本の街、住宅づくりに UR 都市機構が残した成果と今後目指すもの  
—江北六丁目団地と国立富士見台のケーススタディを事例に—」

(講師) (株)遠藤剛生建築設計事務所 所長 神戸芸術工科大学環境デザイン学科 特別教授  
遠藤 剛生 氏

日本住宅公団は1955年の設立以来、一貫して人々の住まいと生活環境づくりを追求してきた。その歴史の中で私もいくつかの計画に関わり、数多くの事柄を学んできた。その経験をもとに、今日の社会的状況を通時態の一断片として捉え、それを一つの計画の方法にまとめ、今回その報告を行う。

#### 2 調査・研究、取り組み等の報告

##### (1) 生物多様性創出に向けて

ビオトープ施設における10年間のモニタリング調査

##### (2) 団地の歩み

公団住宅からUR賃貸住宅まで、60年の住まいづくり

##### (3) URストックの維持修繕

URストックの維持修繕における様々な取り組み

##### (4) 超高齢社会に向けて

地域活動と連携した『暮らしの付加価値』創出に向けた新たな試み

##### (5) 復興支援事業の歩み

東日本大震災からの復興支援に係る様々な取り組み

##### (6) 環境と共生するまちづくり

千里山団地環境配慮プロジェクトの取り組み

#### 3 ミニコーナー

##### (1) コーナー概要

住まいづくりの歴史の一端を感じてもらうため、過去の募集パンフレットやパネル展示等を行います。

(2) 展示日時

報告会同時開催（10月21日（水） 10：00 開場時から講演終了後まで）

(3) 展示場所

テイジンホール ロビー